

「空のカーボンニュートラル」シンポジウム ～SAF（持続可能な航空燃料）の環境価値の見える化～

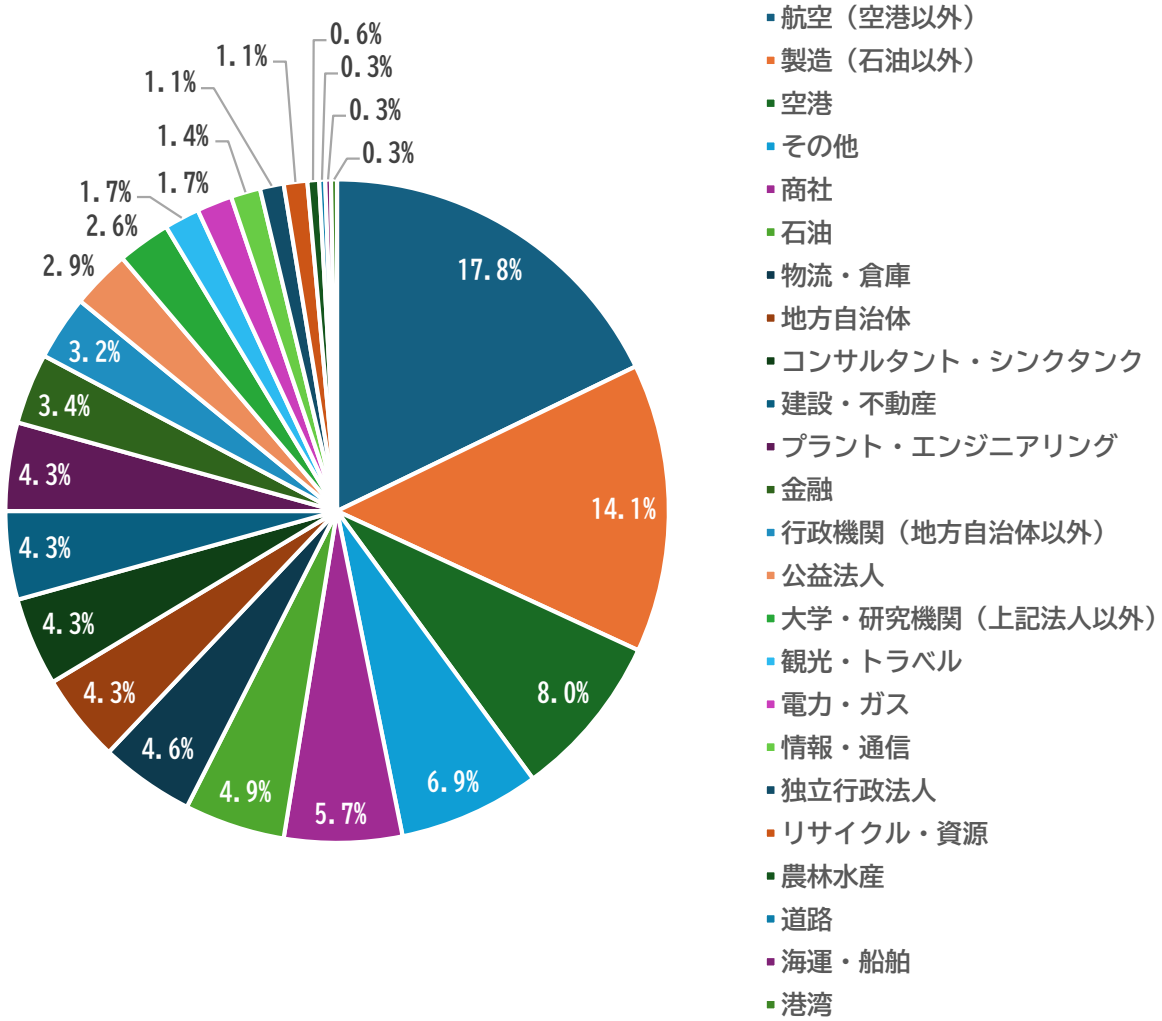
<R7.1.31 アンケート結果概要>

主催：国土交通省、経済産業省資源エネルギー庁

回答者の属性

✓「航空（空港以外）」（17.8%）が最も多く、次いで「製造（石油以外）」（14.1%）の回答が多かった。

属 性	人数	割合	(参考) R6割合
航空(空港以外)	62	17.8%	17.7%
製造(石油以外)	49	14.1%	19.2%
空港	28	8.0%	4.0%
その他	24	6.9%	11.9%
商社	20	5.7%	8.2%
石油	17	4.9%	4.0%
物流・倉庫	16	4.6%	6.1%
地方自治体	15	4.3%	3.7%
コンサルタント・シンクタンク	15	4.3%	4.6%
建設・不動産	15	4.3%	7.0%
プラント・エンジニアリング	15	4.3%	0%
金融	12	3.4%	2.7%
行政機関(地方自治体以外)	11	3.2%	2.1%
公益法人	10	2.9%	2.7%
大学・研究機関(上記法人以外)	9	2.6%	1.5%
観光・トラベル	6	1.7%	0.9%
電力・ガス	6	1.7%	0%
情報・通信	5	1.4%	1.8%
独立行政法人	4	1.1%	0.6%
リサイクル・資源	4	1.1%	0%
農林水産	2	0.6%	0%
道路	1	0.3%	0%
海運・船舶	1	0.3%	0.3%
港湾	1	0.3%	0%
合 計	348	100.0%	100.0% (n=328)



シンポジウムの満足度

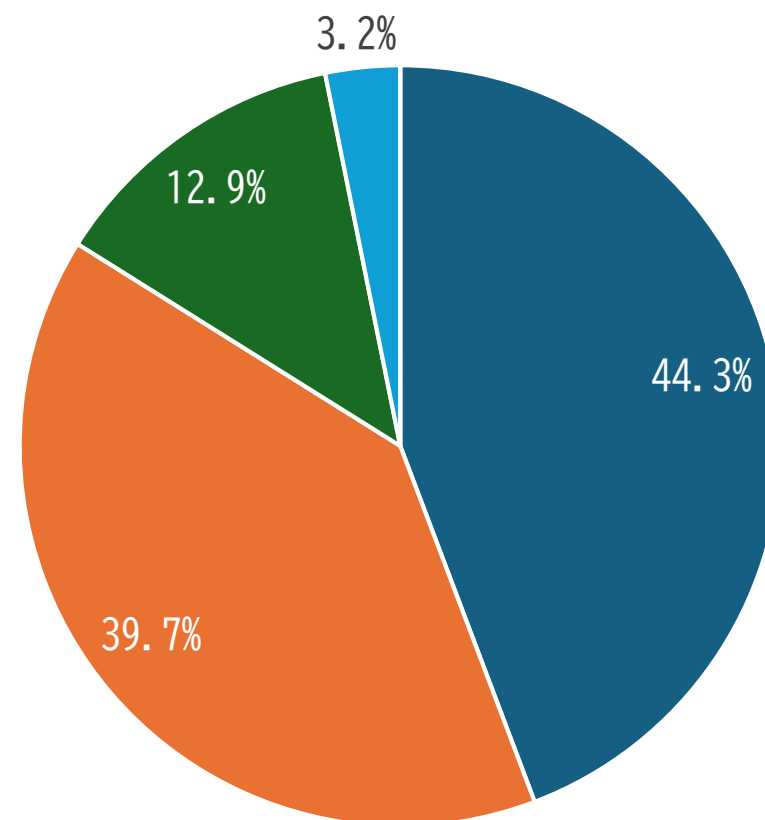
- ✓ 「非常に満足」及び「やや満足」の回答の合計が、約84%を占める。

理由：「SAFに関する現状と課題が理解できた」、次に「SAFの最新状況が把握できた」、
「SAFについて認識を深めた」、「講演等の内容がわかりやすかった」など

- ✓ 「普通」は12.9%、「不満」は3.2%。

理由：「もう少し詳しい説明があったらよかった」、「より幅広いSAF調達状況の話が聞きたかった」など

項 目	人数	割合	(参考) R6割合
■非常に満足	154	44.3%	28.0%
■やや満足	138	39.7%	55.8%
■普通	45	12.9%	14.9%
■やや不満	11	3.2%	1.2%
■非常に不満	0	—	—
合 計	348	100.0%	100.0% (n=328)



航空脱炭素化に対する利用者の意識を高めるための方法

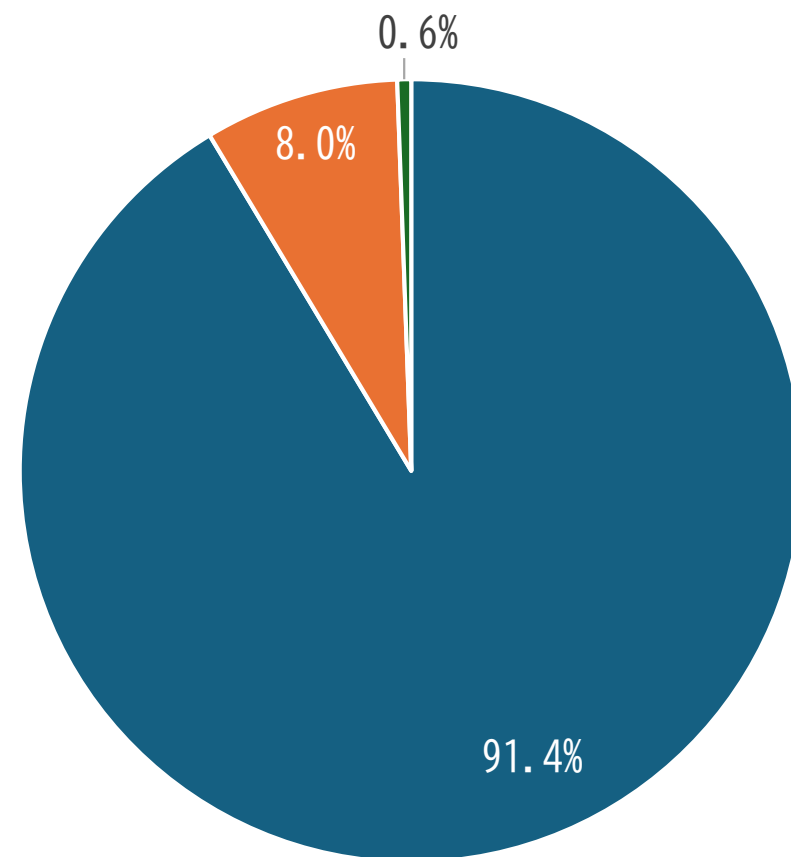
- ✓ 「認知度向上/広報・教育活動の推進」への意見が最も多い。
 - ・「もっと一般市民に対するPRを打つ必要がある」「小学校でSDGsの一環として講演会を実施してほしい」「航空機内での動画放映はどうでしょうか」「油の回収など家庭でも参加できる知識の理解促進」等
- ✓ 次いで「カーボンサーチャージ/SAFサーチャージ/税の導入」。(昨年より8.3pt上昇)
 - ・「搭乗客への費用負担を進めないと自分事にならない」、「賛否はあれ、意識喚起になる」など
- ✓ 次いで「カーボンニュートラル貢献の可視化」、
さらに「制度の設計・施策の実施」、「SAF利用へのメリット付与」と続く。
 - ・「GHG削減量など実績と効果の開示」、「CO2排出削減への貢献を、金額ベースで示す」など
 - ・「国が欧州のような形で積極的に動く必要がある」、「廃油提供・SAF利用に対するポイント制」など

項 目	R7人数	R7割合	(参考)R6割合
認知度向上/広報・教育活動の推進	104	49.3%	49.7%
カーボンサーチャージ/SAFサーチャージ/税の導入	36	17.1%	8.8%
カーボンニュートラル貢献の可視化	22	10.4%	10.9%
制度の設計・施策の実施	17	8.1%	12.9%
SAF利用へのメリット付与	16	7.6%	10.2%
SAFの安定供給/低価格化	8	3.8%	2.0%
その他	8	3.8%	5.4%
合 計	211	100%	100%(n=147)

SAFの認知度

- ✓ 「内容まで知っている」との回答が9割を超え、「言葉だけは聞いたことがある」と合わせると、回答者の99.4%がSAFを認知している。
- ✓ 「知らない」との回答は2人のみ（建設・不動産 1人、観光・トラベル1人）

項目	人数	割合	(参考) R6割合
■内容まで知っている	318	91.4%	86.0%
■言葉だけは聞いたことがある	28	8.0%	11.0%
■知らない	2	0.6%	3.0%
合 計	348	100%	100.0% (n=328)



SAF利用が自己負担の場合の利用について

- ✓ 「利用したい」、「どちらかと言えば利用したい」が約60%を占める。

項 目	人 数	割 合	(参考) R6割合
利用したい	65	18.7%	19.8%
どちらかと言えば利用したい	148	42.5%	50.3%
どちらかと言えば利用したくない	116	33.3%	24.4%
利用したくない	19	5.5%	5.5%
合 計	348	100%	100%

- ✓ 「どちらかと言えば利用したくない」、「利用したくない」回答は約40%であり、主な理由としては以下のとおり。

<「どちらかと言えば利用したくない、利用したくない」理由>

項 目	人数(※)	(参考) R6人数
負担の不透明性	65	10
脱炭素への貢献やCO2削減効果が見えないため	51	—
脱炭素化に対して金銭的な負担をしたくないため	44	53
SAFの利用や環境価値がよくわからないため	16	17
制度や仕組みで解決するべき	7	6
航空機を利用しない（したくない）ため	3	—
その他	5	7
合 計	191	93

<左記の中で「その他」の回答例>

- ・ 賃上げの動向が不明確であるため
- ・ 企業が賃金UPしてくれないと支払えない
- ・ 個人に対して削減目標があるわけではないため
- ・ 理論的な目標設定をしてから費用負担を議論すべき など

※「人数」については、n=135による複数回答。（R6は単一回答）

SAF利用が他者負担の場合の利用について

- ✓ 「利用したい」、「どちらかと言えば利用したい」が約90%を占める。

項 目	人 数	割 合	(参考) R6割合
利用したい	185	53.2%	55.8%
どちらかと言えば利用したい	124	35.6%	37.2%
どちらかと言えば利用したくない	31	8.9%	6.1%
利用したくない	8	2.3%	0.9%
合 計	348	100%	100%

- ✓ 「どちらかと言えば利用したくない」、「利用したくない」回答は約10%であり、主な理由としては以下のとおり。

<「どちらかと言えば利用したくない、利用したくない」理由>

項 目	人数(※)	(参考) R6人数
負担の不透明性	17	5
脱炭素への貢献やCO2削減効果が見えないため	14	—
脱炭素化に対して金銭的な負担をしたくないため	10	8
SAFの利用や環境価値がよくわからないため	9	7
航空機を利用しない（したくない）ため	1	—
制度や仕組みで解決すべき	0	1
その他	6	3
合 計	57	24

<左記の中で「その他」の回答例>

- ・本来は全ての利用者が負担すべき、利用者負担が原則
- ・業務の場合、経済合理性の理由が求められるため
- ・Scope3排出量削減に投じうる費用との見合いで考えるべきであり、自己負担でないから利用したいとはならない
- ・受益者負担が原則だが、運賃のアップは最低限になるように検討すべき など

※「人数」については、n=39による複数回答。（R6は単一回答）